

小学2年 生活科 「まちのよいところを交流校の友達に紹介しよう」学校間交流の取り組み

鳥取県琴浦町立八橋小学校 谷田 健司

【実践報告の概要】

2年生活科「町たんけん」の学習で、県内の地域性の違う学校とリモートで学校間交流を行った。その際、学校放送番組「おばけの学校たんけんだん」を活用しながら取り組んだ。単元の導入では、それぞれの学校で番組視聴し学習の見通しを持たせた。作品づくりでは、意見交流ができる場を設定し、番組の内容や番組ホームページの作品を活用しながら意見交換できるようにした。番組活用しながら学校間交流することで、両校の児童が意欲的に意見交換をしながら、地域のよさを気づくことができた。

【取組の具体】

小学校2年生 生活科

「まちのよいところを交流校の友達に紹介しよう！」

1. 町たんけん計画を立てる。

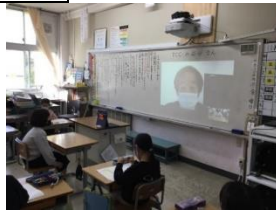
- ・「おばけの学校たんけんだん」を、それぞれの学校が一斉視聴した。視聴後に、「何を調べるか」「何をまとめるか」「誰に何を伝えるか」を確認し、学習の見通しをもたせる。
- ・八橋地区にあるみんなの使う施設を発表し、見学したい施設を決める。
- ・施設の写真を提示し施設を利用した体験を想起させ、調べたいことや聞きたいことを考える。

2. 公共施設を見学に行く。

- ・公共施設（図書館・コミュニティーセンター・地元ケーブルテレビ）を見学したり、インタビューをしたりする。
- ・見学後、わかったことやもっと知りたいことを付箋に書き出し、ワークシートにまとめる。

3. 施設の方とリモート会議を行う。

- ・施設の方と「Google Meet」を使い、質問する。
- ・施設の方に聞いて、わかったことをワークシートに付け加え、伝えたい内容を決める。



4. リーフレットを作成する。

- ・リーフレットを作成しはじめたときから、交流校と Web 上で共有し、意見交流ができるようにする。
- ・番組ホームページの児童作品や友達の作品を自由に見えるようにし、リーフレットの作り方を確認したり、意見交換や学び合いを促したりする。

5. オンライン発表会を行う。

- ・Web 上で両校の児童の作品を公開し合い、友達の作品の良いところや感想を打ち込む。
- ・友達からもらった作品のコメントを発表し合い、八橋地区にある公共施設の良さをまとめる。

6. 感想交流会を行う。

- ・オンライン交流会を開き、自分の作品のコメントに対する感想を発表し合う。
- ・交流会のふり返りを行う。



【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組「おばけの学校たんけんだん」

- 身近な自然や地域の人との出会う中で、様々な感覚を使って「気づき」の幅を広げていくことができる。
- 活動のふり返りでは、活動にあった表現方法が提示されている。表現させながら気づいたことを自覚させ深い学びに繋げていくことができる。
- 学校間交流の際、両校で同じ番組を視聴したり、番組 HP の番組児童作品を活用したりすることで、単元の学習の見通しや作品をもとにした意見交換ができる。

【本実践における工夫点】

両校が番組視聴し、学習の見通しを共通理解する

導入で、それぞれの学校で番組を視聴する。その際、何を調べ、何をまとめ、誰に何を伝えるかを番組内から見つけ出し、活動の見通しを両校が共通理解できるようにした。

作成段階で伝え合う「いいところ見つけ交流」を行う

作成初期から、Web 上で作品を公開し、交流校や学級全体で作品を見せ合える場を設定した。児童の学習意欲を高めるために、作品のよいところを見つけて打ち込みをさせた。

様々な感覚を使ってまとめることに気づかせ、見方や考え方を深める

作品の内容を様々な感覚で地域のよさが書かれているか確認させる。クラスの友達や番組児童の作品から、まとめ方や書き方などを気づき、まとめさせた。

【本実践の成果○と課題●】

- 両校が同じ番組視聴をすることで、お互いに学習の見通しを共有することができ、相手校の学習状況や作品の感想を書き込みやすくなることができた。
- 番組 HP を活用することで、五感を使った調べ方や作品から公共施設のよさのまとめ方を知り、深い学びに繋げることができた。
- 作成段階から交流を行うことで、相手意識をもちながら交流ができることと他地域からの驚きや賞賛してもらうことで、学習意欲が向上し、自分の地域のよさを自覚することに繋がった。
- 学校間交流を年間カリキュラムに位置づけ実施することで、より深い見方や考え方に繋がると考える。
- 作品づくりで写真や友達の文書を使用する際、引用や出典、著作権などの情報モラルを、低学年から段階的に指導して中学年以降に繋げる必要がある。